



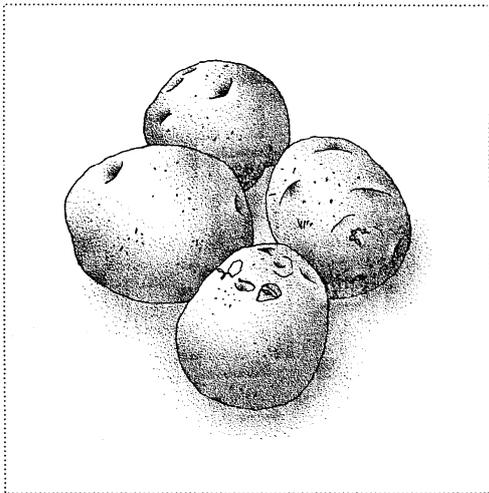
弱酸性の排水よい土で

——**鮫島 國親**

原産地は南米アンデス高地。世界中で広く栽培されています。塊茎（イモ）を食用にし、種イモで増やします。種イモには3－6カ月の休眠期間があります。植え付けの目安は休眠が明け、芽が動き始めるころです。主成分はでんぷんですが、ビタミンB₁・C、食物繊維を多く含みます。鹿児島県では冬から春にかけて多く生産され、県外へ出荷されます。今回は県内各地で一般に栽培される秋作と春作を紹介します。

萌芽適温は12－15度、生育適温は15－20度で冷涼な気候を好みます。土壌は弱酸性で排水のよい砂壤土が適します。イモの表面がかさぶた状になる「そうか病」は中性－アルカリ性土壌の連作池で多発しやすいです。いったん発生すると防除は難しいです。無病イモを植え付けましょう。青果用品種はニシユタカ、メークイン、農林1号、デジマなどがあります。

秋作は8月上旬－9月上旬に植え付け、11月下旬－1月下旬に掘り取る栽培です。台風や霜の被害に注意が必要です。種イモは暖地春作の休眠の明けたイモを使用します。一片が30g程度（2－4芽）になるように縦に切り、風通しの良い日陰に2、3日置きます。種イモの必要量は1㎡当たり20－24kgです。なお、小イモを切らずに用いると腐放しににくいです。



効です。

本ぼには1平方m当たり堆肥2kg、化学肥料100g（三要素15%の場合）を目安として施します。うね幅60－65cm、株間15－20cm、一条植えとし、種イモを並べて土を10cmくらいかぶせ、うねを作ります。生育前期に雨などで土が流れた場合、イモの緑化防止として土寄せを行いましょ。芽数は一株当たり3本以下に整理します。収穫は晴天日に行います。

春作は1月中旬－3月上旬に植え付け、5月上旬－6月中旬に掘り取る栽培です。種イモは寒冷地産の夏作イモもしくは暖地秋作産のイモを使用します。うね幅65－70cm、株間20－25cm、一条植えとします。早い時期から収穫したい場合はマルチ栽培が有

(鹿児島県農業開発総合センター副所長)

平成19年8月9日(木)／南日本新聞